

■山崎美成 和学者、雑学者。和学・和歌ほか、絵画・地理・暦・人物伝など、きわめて幅広い領域で健筆を振るった。

やまざきよししげ

昌平饗始・・・1797＝ 江戸下谷長者町の薬種商(長崎屋)の子として生まれる。

幼い頃から読書を好み、

げんろ報復・ 1806＝ 9歳：

・・・・・・ 1815＝18歳：

__小山田与清・北静廬らに師事し、和漢古今の書を数多く読みあさり、著述家として一家を成すに至る。そのため家業を一時衰えさせるほどであった。

水野忠成老中1818＝21歳：

群書類従完結1819＝22歳：「麓の花」成る。

・・・・・・ 1820＝23歳：__天狗小僧寅吉をめぐり、平田篤胤とさかんに往来。

膝栗毛終・・・ 1822＝25歳：「民間時令」成る。

ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝27歳：__屋代弘賢や中村仏庵らと語らい、古器物や珍しい図書を探究し鑑賞する{耽奇会}を始め、のち滝沢馬琴もこれに加わった。その記録が馬琴の序になる「耽奇漫録」であることは今日よく知られており、

異国船打払令1825＝28歳：*屋代弘賢・馬琴らとともに{兎園会}を組織し、その記録として「兎園小説」を残したこともよく知られている。居を下谷金杉村に移し、以後、もっぱら著述に専念、「三養雑記」などを著わしたが、

ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・ 1828＝31歳：「文教温故」刊、

ｼｰﾎﾞﾙﾄ追放・ 1829＝32歳：*その実力が買われ、幕臣鍋島直孝に禄仕することとなり、

この間、「夜談録」を著わした。

天保大飢饉始1833＝36歳：*家業を子に譲って江戸下谷の金杉に隠退し、福井春水や屋代弘賢と{疑問会}を組織、随筆・和歌に関する見解を述べ合った。この記録も「疑問録」として残されている。

大塩平八郎乱1837＝40歳：「海録」成る。

勸進帳初演・ 1840＝43歳：「三養雑記」刊、

天保改革弾圧1842＝45歳：__「名家略伝」刊、

順天堂始・・・ 1843＝46歳：本居宣長の「古今和歌集遠鏡」に頭注をつけた「頭書古今和歌集遠鏡」を著わす。「世事百談」刊、

天保改革終・ 1844＝47歳：__「沿革地図説」、

阿部正弘首座1845＝48歳：

国定忠治磔・ 1850＝53歳：「提醒紀談」刊、

尊徳報徳論・ 1851＝54歳：編「江都名家詩選」刊、

ペリー来航・ 1853＝56歳：

松下村塾・・・ 1856＝59歳：*「大地震暦年考」を著して、没した。

和学・和歌に関するもの以外にも、絵画・地理・暦・人物伝などきわめて幅広い領域で健筆をふるい、上記のほか、「赤穂義士随筆」「赤穂義士伝」「浮世絵師系譜」「英雄略伝万記」「遠忌考」「歌曲考」「好問堂考古雑録」「書家便覧」「早引節用集」など多数。